

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1248例(男性689例(10歳代63例, 20歳代246例, 30歳代144例, 40歳代104例, 50歳代67例, 60歳代33例, 70歳代8例, 80歳代9例, 90歳代2例, 年齢非公開13例), 女性533例(10歳代59例, 20歳代157例, 30歳代106例, 40歳代73例, 50歳代76例, 60歳代17例, 70歳代11例, 80歳代8例, 90歳代4例, 年齢非公開22例), 性別及び年齢非公開26例)あり, 本年の累積報告数は10,625例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が8例(90歳代男性1例, 10歳代女性2例, 20歳代女性3例, 40歳代女性1例及び60歳代女性1例)ありました。本年の累積報告数は22例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については, 下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(50歳代女性)ありました。本年の累積報告数は23例となりました。
- 梅毒の報告が1例(40歳代男性)(第30週追加報告分)ありました。感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は39例となりました。

◆ 今週のトピックス: <百日咳>

京都市の本年の百日咳報告数は第31週まででわずか3例にとどまっており, 全国でも374例とかなり少ないです。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類: 結核 7例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 4例)うち喀痰塗抹陽性 3例
【1月以降の累積報告数 148例(肺結核 54例, その他結核 39例, 潜在性結核感染者 55例)うち喀痰塗抹陽性 24例】
- 新型コロナウイルス感染症 1248例【1月以降の累積報告数10,625例】
- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 8例【1月以降の累積報告数 22例】
- 五類: カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 23例】
- 五類: 梅毒 1例【1月以降の累積報告数 39例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

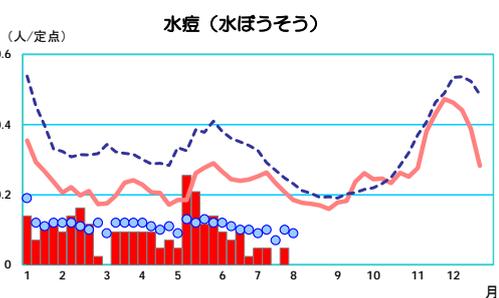
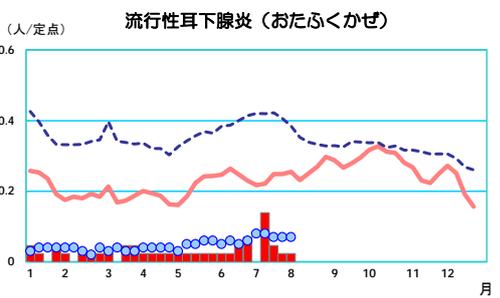
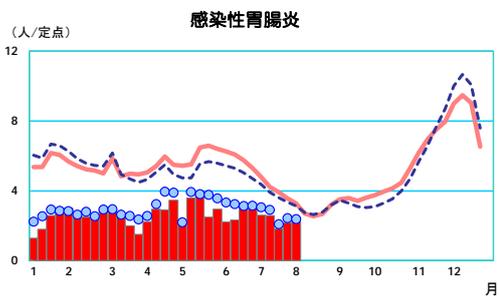
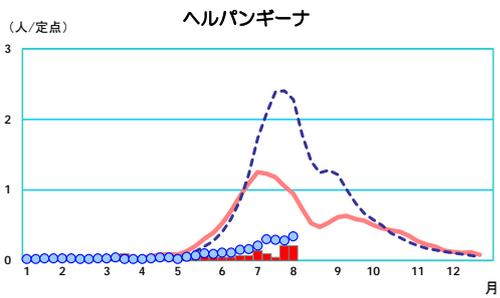
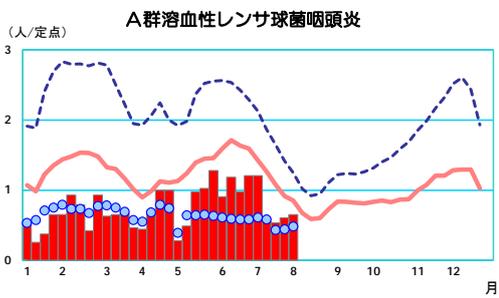
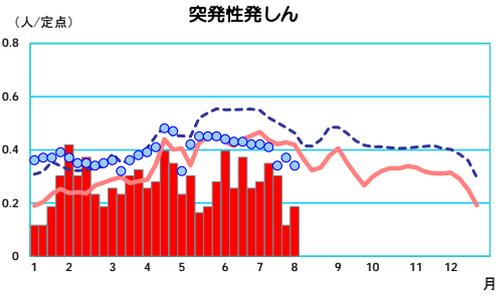
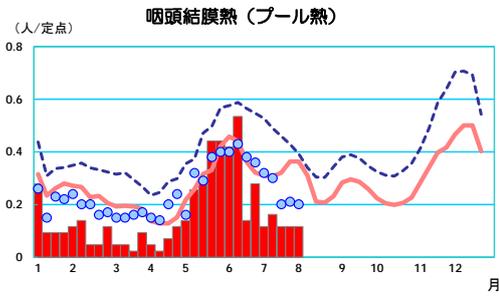
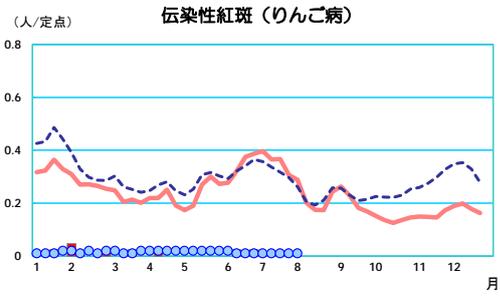
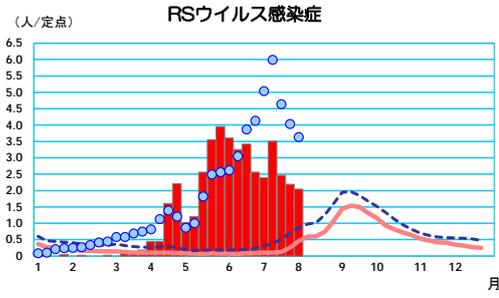
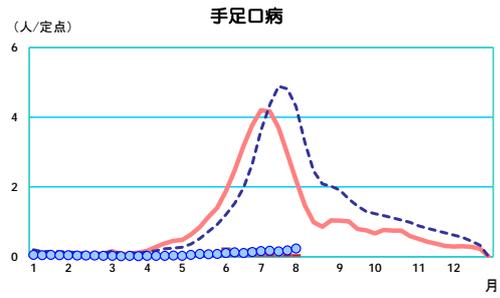
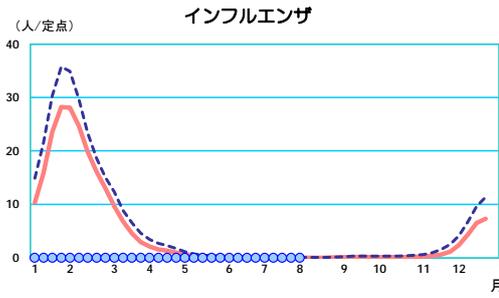
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.21	95
	② RSウイルス感染症	2.05	88
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.65	28
	④ ヘルパンギーナ	0.21	9
	⑤ 突発性発しん	0.19	8
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

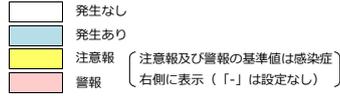
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <百日咳>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは, 2021年8月11日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

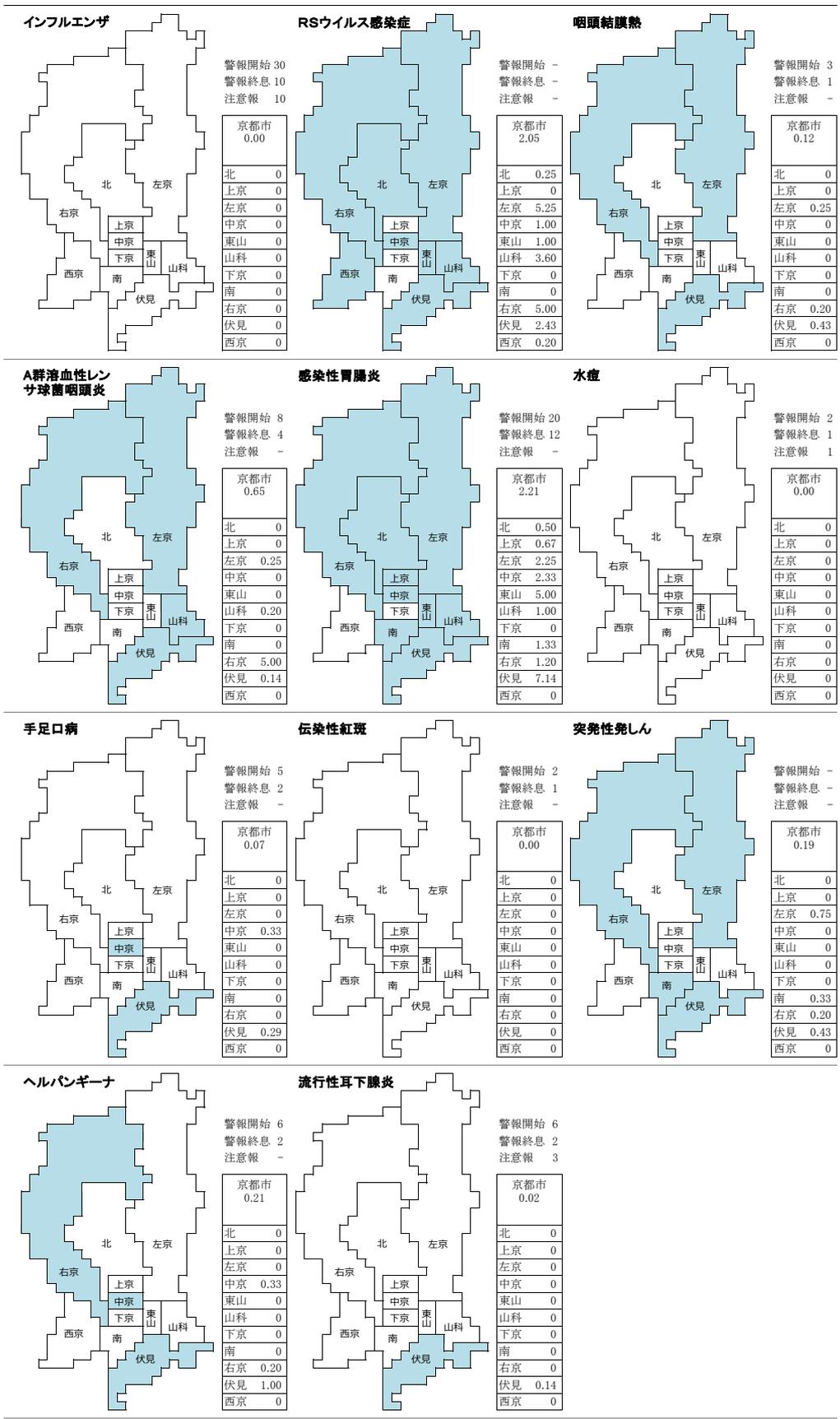
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年第31週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
 「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第31週(8月2日～8月8日)トピックス:<百日咳>

京都市の今年の百日咳報告数は第31週まででわずか3例にとどまっており、全国でも374例とかなり少ないです。百日咳の報告は、かつて多くを占めていた0～4歳が減少し、相対的に成人を含む15歳以上の割合が増加してきたこと、また、定点把握では集団感染の適時把握ができないなどの状況が指摘されていました。このため、2018年1月1日に小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。

2018年以降の推移は、京都市で2018年に87例、2019年に113例、全国では12,115例及び16,845例となり、定点把握疾患だった時に比べ、報告数が大きく増加しました。しかしながら、2020年をみると、2018年から2019年12月にかけて直線的に増加していた報告数が、特に3月ごろから極端に少なく、累積グラフで見るとほぼ横ばい状態になり、非常に特徴的な推移をたどりました。本年も報告数は非常に少なく、京都市ではほとんどないと言っていい状況です(図1及び図2)。

減少した原因ははっきりとはわかりませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で、手洗いなどの衛生行動が、これまでより感染症予防に有利に変化したことや、医療機関の受診行動が変わったことも一因として考えられます。

2018年以降の全国における年齢階級別割合をみると、5歳未満が10.4%、5～9歳が34.6%、10～14歳が25.3%で全体の約7割を占め、学童期及びその後数年の年齢に集中しています。しかしながら、15歳以上も約3割あり、学童期の親世代にあたる40歳前後にゆるやかに幅広いピークが見られるなど、定点では把握しきれていなかった年齢層への広がりがあることがわかります(図3)。

これまで百日咳の診断には、培養、病原体遺伝子検出(LAMP法・PCR法)、抗体検出あるいは抗体価の有意上昇・高値などが用いられてきましたが、今般、イムノクロマト法による抗原検査キットが発売され(6月16日販売開始)、保険請求できるようになりました。感染症法に基づく届出基準についても検査材料として鼻咽頭拭い液、検査方法としてイムノクロマト法による病原体の抗原の検出が追加されました。

また、青年・成人期以降の百日咳対策として、2016年2月に沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの用法及び用量が改訂され、成人への追加免疫の接種が適応になっています。

感染症の発生動向においては、新型コロナウイルス感染症の流行以降、インフルエンザなど極端に報告が減少した感染症がある一方、RSウイルス感染症のように例年と全く違った動向を示す感染症もあります。百日咳についても様々な可能性があります。今後の発生動向にも注意しましょう。

図1 京都市の累積報告数(2018年～2021年第31週)

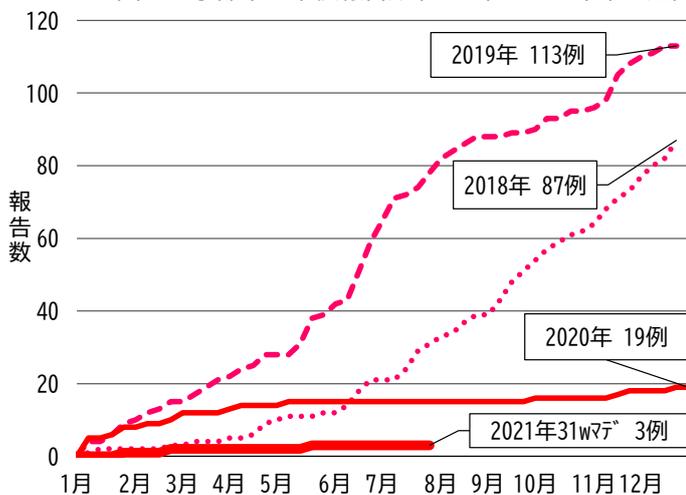


図2 全国の累積報告数(2018年～2021年第31週)

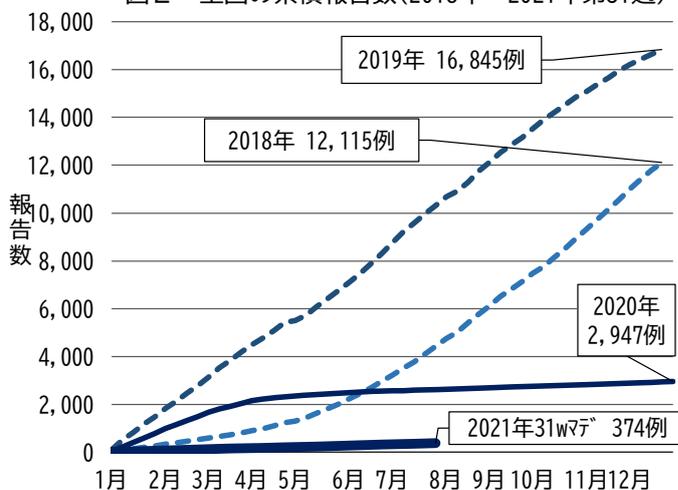
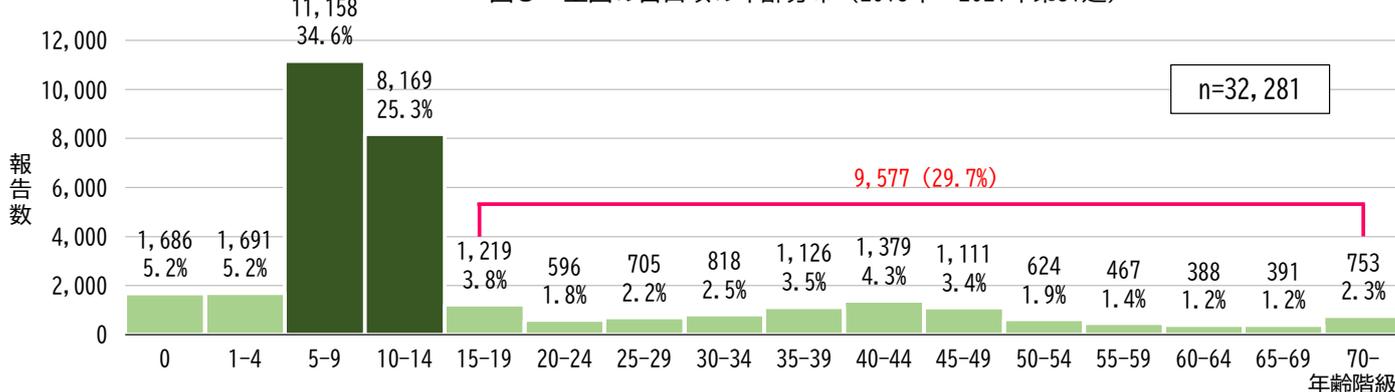


図3 全国の百日咳の年齢分布(2018年～2021年第31週)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第31週

疾病,行政区別報告数

2021年8月2日~2021年8月8日

データ入手日:2021年8月11日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	21	1	1	9	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	3	-	-	7	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	2	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	18	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	25	1	25	6	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
伏見	-	17	3	1	50	-	2	-	3	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	88	5	28	95	-	3	-	8	9	1	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	0.25	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.25	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	5.25	0.25	0.25	2.25	-	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	1.00	-	-	2.33	-	0.33	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.00	-	-	5.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	3.60	-	0.20	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	1.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	5.00	0.20	5.00	1.20	-	-	-	0.20	0.20	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-
伏見	-	2.43	0.43	0.14	7.14	-	0.29	-	0.43	1.00	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	2.05	0.12	0.65	2.21	-	0.07	-	0.19	0.21	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第31週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年8月2日～2021年8月8日

データ入手日:2021年8月11日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	88	6	9	36	29	6	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		5	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		28	-	1	2	4	5	3	3	2	-	2	1	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		95	-	5	22	10	9	9	9	4	4	6	-	11	1	5	-	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		3	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		8	-	-	6	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		9	-	-	2	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	2.05	0.14	0.21	0.84	0.67	0.14	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.12	-	0.02	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.65	-	0.02	0.05	0.09	0.12	0.07	0.07	0.05	-	0.05	0.02	0.05	-	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.21	-	0.12	0.51	0.23	0.21	0.21	0.21	0.09	0.09	0.14	-	0.26	0.02	0.12	-	-	-	-	-	-
水痘		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.07	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.19	-	-	0.14	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.21	-	-	0.05	0.09	0.05	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	0.10
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第31週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年8月11日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	110	103	151	106	94	88
咽頭結膜熱	12	5	7	5	5	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	52	52	24	23	26	28
感染性胃腸炎	131	112	110	78	93	95
水痘	1	2	2	-	2	-
手足口病	10	2	4	1	3	3
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-
突発性発しん	11	12	15	13	5	8
ヘルパンギーナ	3	6	4	2	9	9
流行性耳下腺炎	3	-	6	2	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	3	-	2	-	3	2
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	337	294	325	230	241	239

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2.56	2.40	3.51	2.47	2.19	2.05
咽頭結膜熱	0.28	0.12	0.16	0.12	0.12	0.12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.21	1.21	0.56	0.53	0.60	0.65
感染性胃腸炎	3.05	2.60	2.56	1.81	2.16	2.21
水痘	0.02	0.05	0.05	-	0.05	-
手足口病	0.23	0.05	0.09	0.02	0.07	0.07
伝染性紅斑	0.02	-	-	-	-	-
突発性発しん	0.26	0.28	0.35	0.30	0.12	0.19
ヘルパンギーナ	0.07	0.14	0.09	0.05	0.21	0.21
流行性耳下腺炎	0.07	-	0.14	0.05	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.30	-	0.20	-	0.30	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.07	6.84	7.71	5.35	5.83	5.71

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。